

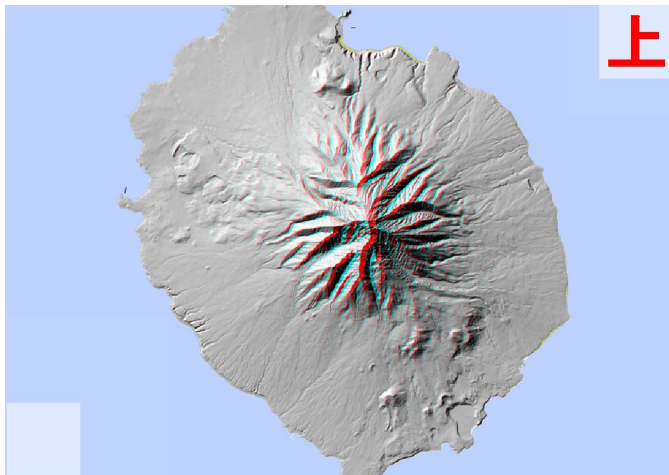
「火山がつくる地形(12)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

公開研究会での本時では、6種類の「アナグリフ地形」の拡大画像(A1サイズ)を用意した。結局公開研究会は中止となった為、この授業は先週の休校措置前に実施することにした。



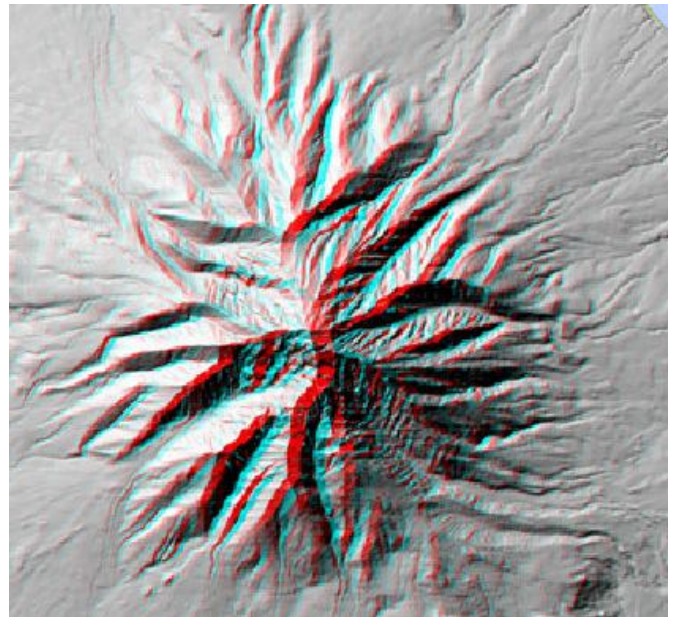
①「利尻山」

道北の離島「利尻島」にある火山である。「りしりざん」が正式名称だが、「利尻岳」「利尻富士」とも呼ばれている。島全体が火山の山体といっても良く、その点では伊豆大島や三宅島と同じである。高緯度にあるので、2,000mに満たない標高ながら、山頂付近にはすばらしい高山植物の群落がある。私の高校時代の山岳部顧問の先生は「海岸(海拔0m)から山頂(1,721m)まで日帰りで行けばいけないので、日本一厳しい山」とよく仰っていた。

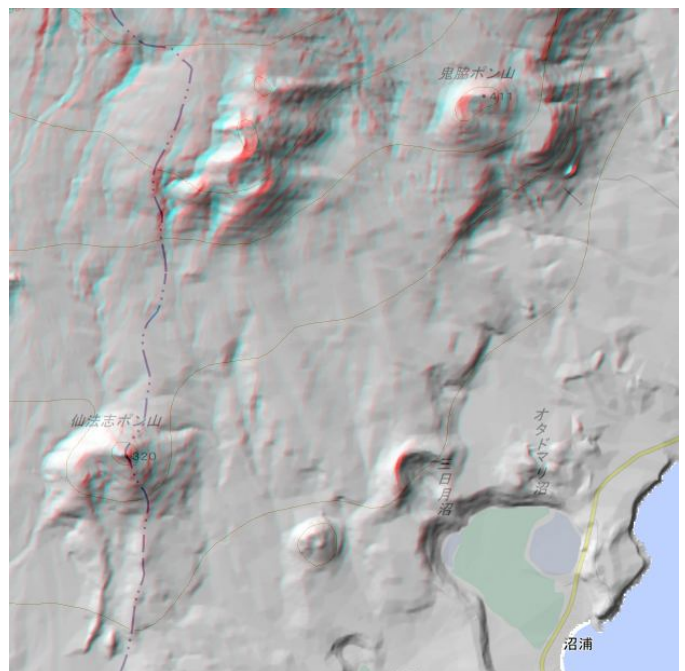


利尻山(利尻富士)は、北海道の西海岸線からもよく見える。宗谷本線の車窓から利尻富士が見えると、

乗客から歓声が沸くこともある。まさに「利尻富士」の名にふさわしい、「洋上の富士」である。



火山としては古い火山で、主峰(利尻山)は約4万年前にはすでに形成されていた。山頂から浸食谷(放射谷)の発達が激しい。地球の歴史から見れば、4万年は一瞬と言えるが、ここまで浸食が進むのは驚きである。火口壁は崩れ、西南西側(左側)に大規模な浸食が見られるが、これは「火口瀬」に間違いない。



南東麓には寄生火山やマール(爆裂火口)も多い。「鬼脇ポン山」「仙法志ポン山」などの表記が見られるが、これらは数千年前に形成された寄生火山(スコリア丘)である。こうした地形も、利尻山を火山と判別できる証拠になる。「ポン」とはアイヌ語で「小さい」という接頭語である。北海道には「ポンベツ」「ポンノウシ」といった地名が多い。